Internet Streaming Server

6 故障かな？と思ったときは

正しく動作せず「故障かな？」と思ったときに参照してください。

本装置全般の運用について説明した「Express Server Management Guide」も参考にしてください。「Express Server Management Guide」は、オンラインドキュメントまたは次のホームページより参照することができます。

http://www.express.nec.co.jp/

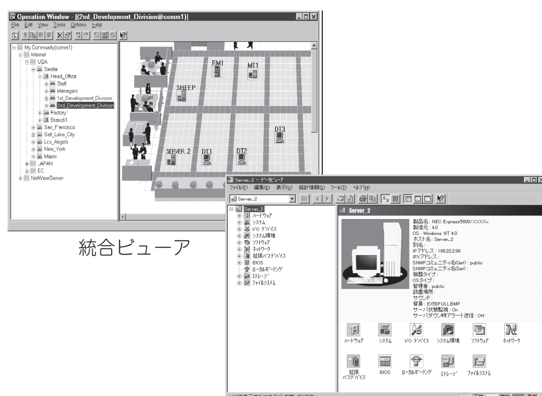
日常の保守

本装置を常にベストな状態でお使いになるために、ここで説明する確認や保守を定期的に行ってください。万一、異常が見られた場合は、無理な操作をせずに保守サービス会社に保守を依頼してください。

アラートの確認

システムの運用中は、ESMPROで障害状況を監視してください。
管理PC上のESMPRO/ServerManagerにアラートが通報されていないか、常に注意するよう心がけてください。ESMPRO/ServerManagerの「統合ビューア」、「データビューア」、「アラートビューア」でアラートが通報されていないかチェックしてください。

ESMPROでチェックする画面



統合ビューア



データビューア

アラートビューア
ファイル(F) 編集(E) 表示(V) ツール(T) ヘルプ(H)
重要度: (すべて) コンポーネント: (すべて)

概要	タイプ	コンポーネント	アドレス	受信時刻	製品名
システムドライブ ONLINE	Mylex System Drive	I99F2	110.119.0.22	1999/05/06 11:21	ESMPRO/SM
物理デバイス ONLINE	Mylex Physical Device	I99F2	110.119.0.22	1999/05/06 11:21	ESMPRO/SM
システムドライブ CRITICAL	Mylex System Drive	I99F2	110.119.0.22	1999/05/06 11:20	ESMPRO/SM
物理デバイス DEAD	Mylex Physical Device	I99F2	110.119.0.22	1999/05/06 11:20	ESMPRO/SM

全体 4 件, 未読 2 件 情報 警告 異常

アラートビューア

ステータスランプの確認

本装置の電源をONにした後、およびシャットダウンをして本装置の電源をOFFにする前に、前面にあるランプや、3.5インチデバイスベイに搭載しているハードディスクのランプの表示を確認してください。ランプの機能と表示の内容については1章をご覧ください。万一、本装置の異常を示す表示が確認された場合は、保守サービス会社に連絡して保守を依頼してください。

バックアップ

定期的に本装置のハードディスク内の大切なデータをバックアップすることをお勧めします。本装置に最適なバックアップ用ストレージデバイスやバックアップツールについてはお買い求めの販売店にお問い合わせください。

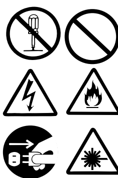
ハードウェアの構成を変更したり、BIOSの設定を変更したりした後は、添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」のユーティリティを使用してシステム情報のバックアップをとってください。詳しくは3章を参照してください。

ディスクアレイを構築しているモデルでは、ディスクアレイのコンフィグレーション情報のバックアップをとっておいてください。また、ハードディスクの故障によるリビルドを行った後もコンフィグレーション情報のバックアップをとっておくことをお勧めします。コンフィグレーション情報のセーブは添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」を使用します。4章を参照してください。

クリーニング

本装置を良い状態に保つために定期的にクリーニングしてください。





装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。指示を守らないと、人が死亡する、または重傷を負うおそれがあります。詳しくは、iiiページ以降の説明をご覧ください。

- 自分で分解・修理・改造はしない
- CD-ROMドライブの内部をのぞかない
- プラグを差し込んだまま取り扱わない

本体のクリーニング

本装置の外観の汚れは、柔らかい乾いた布でふき取ってください。汚れが落ちにくいときは、次のような方法できれいになります。



- シンナー、ベンジンなどの揮発性の溶剤は使わないでください。材質のいたみや変色の原因になります。
- コンセント、ケーブル、本体背面のコネクタ、本体内部は絶対に水などでぬらさないでください。

1. 本装置の電源がOFF（POWER/SLEEPランプ消灯）になっていることを確認する。
2. 本装置の電源コードをコンセントから抜く。
3. 電源コードの電源プラグ部分についているほこりを乾いた布でふき取る。
4. 中性洗剤をぬるま湯または水で薄めて柔らかい布を浸し、よく絞る。
5. 本装置の汚れた部分を手順4の布で少し強めにこすって汚れを取る。
6. 真水でぬらしてよく絞った布でもう一度ふく。
7. 乾いた布でふく。
8. 乾いた布で装置背面にある吸気口や排気口に付着しているほこりをふき取る。

キーボード／マウスのクリーニング

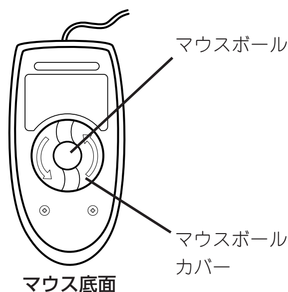
キーボードは本装置および周辺装置を含むシステム全体の電源がOFF（POWERランプ消灯）になっていることを確認した後、キーボードの表面を乾いた布で拭いてください。
マウスが正常に機能するためには、内部のマウスボールがスムーズに回転できる状態でなければなりません。マウスボールの汚れを防ぐためにほこりの少ない場所で使用して、定期的に次の手順でクリーニングしてください。

1. 本装置の電源がOFF（POWER/SLEEPランプ消灯）になっていることを確認する。
2. マウスを裏返してマウスボールカバーを反時計回りに回して中からマウスボールを取り出す。
3. マウスボールを乾いた柔らかい布などでふいて、汚れを取り除く。

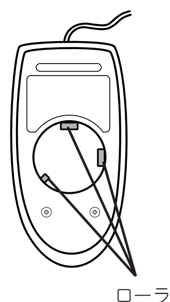
   汚れがひどいときはぬるま湯または水で薄めた中性洗剤を少量含ませてふいてください。
4. マウス内部にある3つの小さなローラを綿棒などでふく。

   汚れがひどいときはアルコールなどを少量含ませてふいてください。
5. マウスボールをマウスの中に戻す。

   手順3、4でマウスボールやローラをぬらした場合は、十分に乾燥させてからボールを入れてください。
6. マウスボールカバーを元に戻して、時計回りに回してロックする。



マウス底面



CD-ROMのクリーニング

CD-ROMにほこりがついていたり、トレーにほこりがたまっていたりするとデータを正しく読み取れません。次の手順に従って定期的にトレー、CD-ROMのクリーニングを行います。

1. 本装置の電源がON(POWER/SLEEPランプ点灯)になっていることを確認する。
2. CD-ROMドライブ前面のCDトレーイジェクトボタンを押す。

   トレーがCD-ROMドライブから出てきます。
3. CD-ROMを軽く持ちながらトレーから取り出す。

   重要

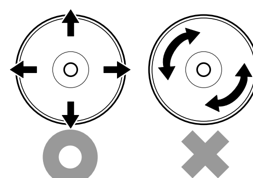
   CD-ROMの信号面に手が触れないよう注意してください。
4. トレー上のほこりを乾いた柔らかい布でふき取る。

   重要

   CD-ROMドライブのレンズをクリーニングしないでください。レンズが傷ついて誤動作の原因となります。
5. トレーを軽く押してトレーをCD-ROMドライブに戻す。
6. CD-ROMの信号面を乾いた柔らかい布でふく。

   重要

   CD-ROMは、中心から外側に向けてふいてください。クリーナをお使いになるときは、CD-ROM専用のクリーナであることをお確かめください。レコード用のスプレー、クリーナ、ベンジン、シンナーを使用すると、ディスクの内容が読めなくなったり、本装置にそのディスクをセットした結果、故障したりするおそれがあります。



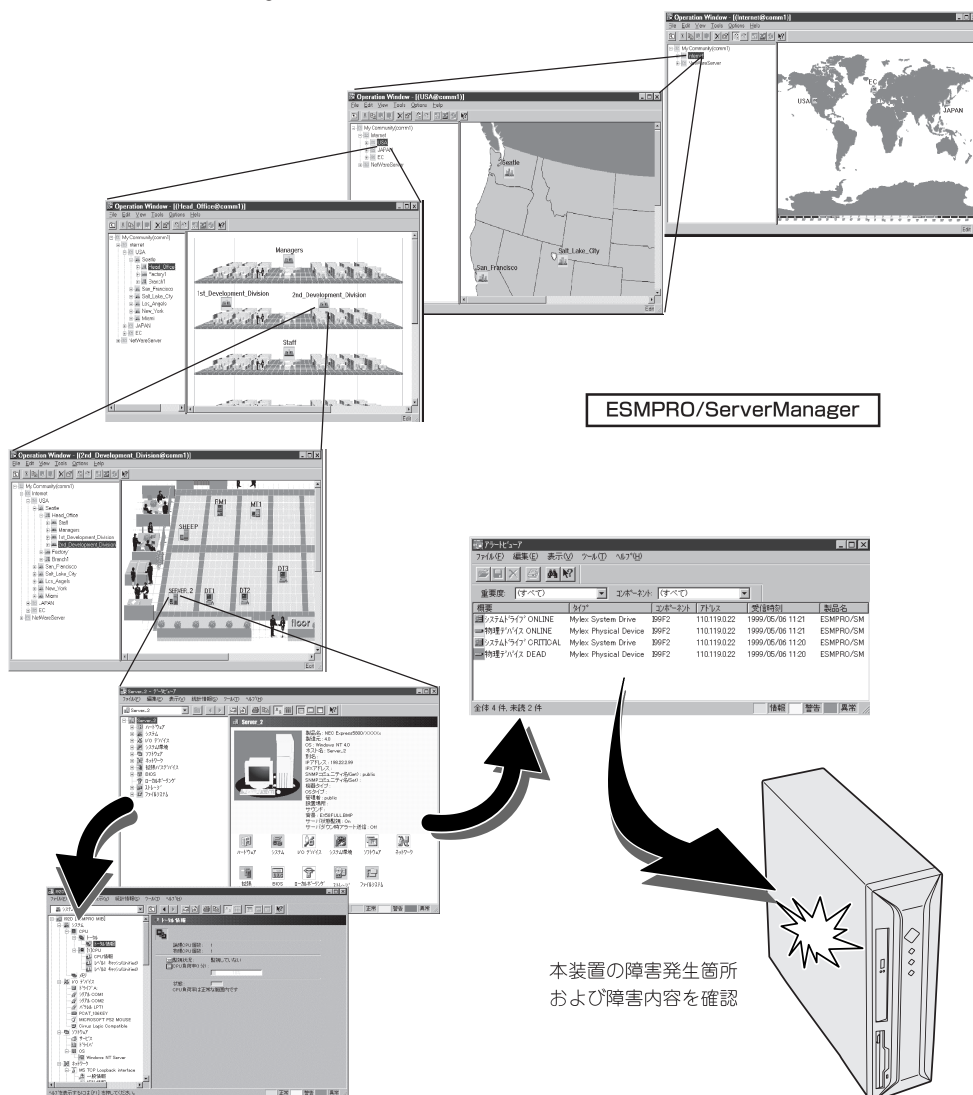
障害時の対処

「故障かな？」と思ったときは、ここで説明する内容について確認してください。該当することがらがある場合は、説明に従って正しく対処してください。

障害箇所の切り分け

万一、障害が発生した場合は、ESMPRO/ServerManagerを使って障害の発生箇所を確認し、障害がハードウェアによるものかソフトウェアによるものかを判断します。
障害発生個所や内容の確認ができたら、故障した部品の交換やシステム復旧などの処置を行います。

障害がハードウェア要因によるものかソフトウェア要因によるものかを判断するには、ESMPRO/ServerManagerが便利です。



エラーメッセージ

本装置に何らかの異常が起きるとさまざまな形でエラーを通知します。ここでは、エラーメッセージの種類について説明します。

ランプによるエラーメッセージ

本装置の前面や背面にあるランプはさまざまな状態を点灯、点滅、消灯によるパターンや色による表示でユーザーに通知します。「故障かな?」と思ったらランプの表示を確認してください。ランプ表示とその意味については1章をご覧ください。

POST中のエラーメッセージ

本装置の電源をONにすると自動的に実行される自己診断機能「POST」中に何らかの異常を検出すると、ディスプレイ装置の画面にエラーメッセージが表示されます(場合によってはその対処方法も表示されます)。

次に、画面に表示されるメッセージとその意味、対処方法について説明します。



保守サービス会社に連絡するときはディスプレイの表示をメモしておいてください。アラーム表示は保守を行うときに有用な情報となります。



ここで記載されているPOSTのエラーメッセージ一覧は本装置単体のものです。マザーボードに接続されているオプションボードに搭載されているBIOSのエラーメッセージとその対処方法についてはオプションに添付のマニュアルを参照してください。

- **CMOS checksum error - Defaults loaded**

  意味: CMOSのチェックサムが正しくありません。デフォルト値が設定されました。
  対処 CMOS SETUPユーティリティを起動して設定し直してください。

- **CMOS battery failed**

  意味: バッテリがありません。
  対処: 保守サービス会社に連絡してください。

- **Floppy disk(s) fail (40)**

  意味: フロッピーディスクのエラー
  対処: SETUPを起動して正しく設定し直すか、保守サービス会社に連絡してください。

- **Floppy disk(s) fail (80)**

  意味:フロッピーディスクのエラー
  対処: SETUPを起動して正しく設定し直すか、保守サービス会社に連絡してください。

- keyboard error or no keyboard present

意味:　キーボード接続エラー
対処:　キーボードを正しく接続してください。再起動しても同じ症状の場合は保守サービス会社に連絡してください。

- Memory test fail

意味:　メモリエラー
対処:　保守サービス会社に連絡してください。

- Primary master hard disk fail/Primary slave hard disk fail/Secondary master hard disk fail/Secondary slave hard disk fail

意味:　IDEに接続されたデバイスのエラー
対処:　保守サービス会社に連絡してください。

- DISK BOOT FAILURE, INSERT SYSTEM DISK AND PRESS ENTER

意味:　OSの入ったフロッピーディスクまたはハードディスクが見つかりません。
対処:　デバイスの接続を確認してください。OSをインストールしてください。

Windows 2000のエラーメッセージ

Windows 2000の起動後に致命的なエラー（STOPエラーやシステムエラー）が起きるとディスプレイ装置の画面がブルーに変わり、エラーに関する詳細なメッセージが表示されます。

```
*** STOP: 0x0000000A (0x00000074, 0x00000002, 0x00000001, 0x80108E7A)
IRQL_NOT_LESS_OR_EQUAL*** Address 80108E7A has base at 8010000 _ ntoskrnl.exe
```

画面のバックグラウンドの色は「ブルー」

画面に表示されたメッセージを記録して保守サービス会社に連絡してください。
また、このエラーが起きると本装置は自動的にメモリダンプを実行し任意のディレクトリにメモリダンプのデータを保存します。「メモリダンプ（デバッグ情報）の設定」（3章）を参照してください。

のちほど保守サービス会社の保守員からこのデータを提供していただくよう依頼される場合があります。MOやDATなどのメディアにファイルをコピーしての保守員に渡せるよう準備しておいてください。



STOPエラーやシステムエラーが発生しシステムを再起動したとき、仮想メモリが不足していることを示すメッセージが表示されることがありますが、そのまま起動してください。



このファイルをメディアにコピーする前に、イベントビューアを起動して、システムイベントログでSave Dumpのイベントログが記録され、メモリダンプが保存されたことを確認してください。

このほかにもディスクやネットワーク、プリンタなど内蔵デバイスや周辺装置にエラーが起きた場合にも警告メッセージが表示されます。メッセージを記録して保守サービス会社に連絡してください。

サーバ管理アプリケーションからのエラーメッセージ

ESMPRO/ServerAgentやESMPRO/ServerManagerなど本装置専用の管理ツールを本装置や管理PCへインストールしておくと、何らかの障害が起きたときに管理PCや本装置に接続しているディスプレイ装置から障害の内容を知ることができます。

各種アプリケーションのインストールや運用方法については4章またはオンラインドキュメントを参照してください。
ESMPROを使ったシステム構築や各種設定の詳細についてはオンラインヘルプや、オンラインドキュメントの「Express Server Management Guide」、別売の「ESMPROシステム構築ガイド」で詳しく説明されています。

トラブルシューティング

本装置が思うように動作しない場合は修理に出す前に次のチェックリストの内容に従って本装置をチェックしてください。リストにある症状に当てはまる項目があるときは、その後の確認、処理に従ってください。
それでも正常に動作しない場合は、ディスプレイ装置の画面に表示されたメッセージを記録してから、保守サービス会社に連絡してください。

本装置について



電源がONにならない

□ 電源が本装置に正しく供給されていますか?

→ 電源コードが本装置の電源規格に合ったコンセント(またはUPS)に接続されていることを確認してください。

→ 本装置に添付の電源コードを使用してください。また、電源コードの被覆が破れていたり、プラグ部分が折れていたりしていないことを確認してください。

→ 接続したコンセントのブレーカがONになっていることを確認してください。

→ UPSに接続している場合は、UPSの電源がONになっていること、およびUPSから電力が出力されていることを確認してください。詳しくはUPSに添付のマニュアルを参照してください。
また、本装置のCMOS SetupユーティリティでUPSとの電源連動機能の設定ができます。
<確認するメニュー: 「Power Management Setup」→「AC-Link」→「Power On>

□ POWERスイッチを押しましたか?

→ 本装置前面にあるPOWERスイッチを押して電源をON(POWERランプ点灯)にしてください。



画面が出ない・ビープ音が鳴る

□ DIMMが確実に実装されていますか?

→ DIMMがしっかりとコネクタに実装されているか確認してください。



ブルー画面で電源OFFできない

□ 一度押しでは電源OFFはできません。

→ ブルー画面で電源をOFFにする時は、強制電源OFF (強制シャットダウン: 電源スイッチを4秒以上押し続ける)を行ってください。



強制電源OFFが機能しない

□ 保護回路が作動していませんか?

→ Processorが異常高温になった場合、高価な部品を保護するための回路が作動します。この場合、システムは、電源OFFの状態となります。運用環境(周囲温度など)を確認の後、再度、電源をONにする必要があります(Processorが冷却されるまでの間(通常、5分程度)は、電源をOFFの状態にしておく必要がある場合もあります)。

 POSTが終わらない

□ メモリを搭載していますか？
→ 最低1枚のDIMMが搭載されていないと動作しません。

□ 大容量のメモリを搭載していますか？
→ 搭載しているメモリサイズによってはメモリチェックで時間がかかる場合があります。しばらくお待ちください。

□ 本装置の起動直後にキーボードやマウスを操作していませんか？
→ 起動直後にキーボードやマウスを操作すると、POSTは誤ってキーボードコントローラの異常を検出し、処理を停止してしまうことがあります。そのときはもう一度、起動し直してください。また、再起動直後は、BIOSの起動メッセージなどが表示されるまでキーボードやマウスを使って操作しないよう注意してください。

□ 本装置で使用できるメモリ・PCIデバイスを搭載していますか？
→ NECが指定する機器以外は動作の保証はできません。

 内蔵デバイスや外付けデバイスにアクセスできない(または正しく動作しない)

□ ケーブルは正しく接続されていますか？
→ インタフェースケーブルや電源ケーブル(コード)が確実に接続されていることを確認してください。また接続順序が正しいかどうか確認してください。

□ 電源ONの順番を間違っていませんか？
→ 外付けデバイスを接続している場合は、外付けデバイス、本装置の順に電源をONにします。

□ ドライバをインストールしていますか？
→ 接続したオプションのデバイスによっては専用のデバイスドライバが必要なものがあります。デバイスに添付のマニュアルを参照してドライバをインストールしてください。

□ BIOSの設定を間違えていませんか？
→ シリアルポート、パラレルポート、USBポートに接続しているデバイスについては、I/Oポートアドレスや動作モードの設定が必要なものもあります。デバイスに添付のマニュアルを参照して正しく設定してください。
<確認するメニュー:「Integrated Peripheral」>

 キーボードやマウスが正しく機能しない

□ ケーブルは正しく接続されていますか？
→ 本装置背面にあるコネクタに正しく接続されていることを確認してください。
→ 本装置の電源がONになっている間に接続すると正しく機能しません（USBデバイスを除く）。いったん本装置の電源をOFFにしてから正しく接続してください。

□ ドライバをインストールしていますか？
→ 使用しているOSに添付のマニュアルを参照してキーボードやマウスのドライバがインストールされていることを確認してください（これらはOSのインストールの際に標準でインストールされます）。また、OSによってはキーボードやマウスの設定を変更できる場合があります。使用しているOSに添付のマニュアルを参照して正しく設定されているかどうか確認してください。

 フロッピーディスクにアクセス（読み込みまたは書き込みが）できない

□ フロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットしていますか？
→ フロッピーディスクドライブに「カチッ」と音がするまで確実に差し込んでください。

□ 書き込み禁止にしていませんか？
→ フロッピーディスクのライトプロテクトスイッチのノッチを「書き込み可」にセットしてください。

□ フォーマットしていますか？
→ フォーマット済みのフロッピーディスクを使用するか、セットしたフロッピーディスクをフォーマットしてください。フォーマットの方法については、OSに添付のマニュアルを参照してください。

□ BIOSの設定を間違えていませんか？
→ 本装置のBIOSセットアップユーティリティでフロッピーディスクドライブを無効にすることができます。BIOSセットアップユーティリティで設定を確認してください。
<確認するメニュー: 「Integrated Peripherals」→「On Board FDC contoroller」

□ 1.2MBフォーマットのフロッピーディスクを使用していませんか？
→ 本装置では、1.2MBフォーマットのフロッピーディスクは使用できません。1.44MBフォーマットか720KBフォーマットのフロッピーディスクを使用してください。

 CD-ROMにアクセスできない

□ ドライブのトレーに確実にセットしていますか？
→ トレーに確実にセットされていることを確認してください。

□ 本装置で使用できるCD-ROMですか？
→ 本装置は、CD規格に準拠しない「コピーガード付きCD」などのディスクにつきましては、CD再生機器における再生の保証はいたしかねます。
→ Macintosh専用のディスクは使用できません。



正しいCD-ROMを挿入したのに以下のメッセージが表示される

> CD-ROMが挿入されていないか、誤った
> CD-ROMが挿入されています。
> 正しいCD-ROMを挿入してください。
>
> OK

□ CD-ROMのデータ面が汚れていたり、傷ついていたりしていませんか？
→ CD-ROMドライブからCD-ROMを取り出し、よごれ、傷などがないことを確認してから、再度CD-ROMをセットし、[OK]をクリックしてください。



CD-ROMが認識されない

□ IDEケーブルが正しく接続されていますか？
→ IDEケーブルが正しく接続されているか確認してください。ケーブルを調べてピンにへこみ、曲がり、破損がないかを確認してください。

□ 本体のBIOSにCD-ROMドライブが正しく設定されてますか？
→ 本体のBIOSの設定を確認してください。

□ 電源が入っていますか？
→ 本体の電源を入れた時、CD-ROMドライブのビジーLEDが点灯することを確認してください。点灯しない場合は、電源が接続されていない可能性があります。電源ケーブルが正しく接続されているか確認してください。



動作しない

□ 電源が入っていますか？
→ 電源コネクタに電源ケーブルが正しく接続されているか確認してください。

□ IDEケーブルが正しく接続されていますか？
→ IDEケーブルが正しく接続されているか確認してください。ケーブルを調べてピンにへこみ、曲がり、破損がないかを確認してください。



読み出し時に異音が発生する

□ メディアに不良がありませんか？
→ 他のメディアを使用してください。

□ メディアの表面にシールが貼っていませんか？
→ 表面のシールをはがしてください。はがすときは、メディアに傷が付かないように注意してください。



リードエラー(読み出しエラー)が発生する

□ メディアに不良がありませんか?

→ メディアの表面に指紋などの汚れや傷がないか確認してください。汚れがある場合は、メディアをクリーニングしてください。

□ 音楽CDをセットしていませんか?

→ 音楽CDにはデータが入っていないため、エラーメッセージが表示されます。データCDを入れてください。

□ メディアが裏表を間違えてセットしていませんか?

→ トレイからメディアを出し、メディアのトップレーベルを上にしてセットし直してください。

□ パケットライトで書き込まれていませんか?

→ パケットライトで書き込まれたデータを読むためには専用のソフトウェアが必要となります。



外部スピーカから音楽CDの音が出ない

□ サウンドボードが正常に作動していますか?

→ 本装置のオーディオ出力コネクタにアンプ付き外部スピーカを接続し、音楽CDを挿入して再生してください。音が出ればドライブは正常です。本装置と外部スピーカがオーディオケーブルで正しく接続されているか確認してください。本装置側のケーブルがオーディオ入力コネクタ(ラインイン)に接続されていると、サウンド機能は正常に動作しません。オーディオ出力コネクタに正しく接続してください。サウンドドライバがインストールされているか確認してください。



本装置から出る音のレベルが低い

□ サウンドボードと本装置のオーディオケーブルが正しく接続されていますか?

→ オーディオミキサのマスター、CD、ラインのレベルが正しいか確認してください。
いくつかのオーディオミキサがインストールされている場合でも、上記のそれぞれのレベルが正しいかを確認してください。

□ ヘッドフォンなどのアンプのない機器を接続していませんか?

→ アンプ付きのスピーカなどを接続してください。



ディスクトレイが出ない

□ ディスクトレイにメディアが正しくセットされていますか?

→ エマージェンシーイジェクトホールにイマージェンシースティックを差して、ディスクトレイを出してください。

□ ソフトウェアでイジェクトロックされていませんか?

→ Windows環境をお使いの場合は、CD-ROMのプロパティでイジェクトロックされていないか確認してください。



ハードディスクにアクセスできない

□ 本装置で使用できるハードディスクですか？
→ NECが指定する機器を使用してください。

□ ハードディスクは正しく取り付けられていますか？
→ ハードディスクの取り付け状態やケーブルの接続状態を確認してください。また、ハードディスクを固定するネジはハードディスクに添付されているネジを使用してください。

□ ハードディスクを正しく設定していますか？
→ ハードディスクを1台搭載している場合は「Master」、または「Single」に動作モードを設定してください。2台搭載している場合は、ハードディスクベイの上段に搭載しているハードディスクを「Master」に、下段に搭載しているハードディスクを「Slave」に設定してください。動作モードはハードディスクのジャンパピンを使って設定します。詳しくは、ハードディスクに添付されている説明書を参照してください。



SCSI機器（外付け）にアクセスできない

□ 本装置で使用できるSCSI機器ですか？
→ NECが指定する機器以外は動作の保証はできません。

□ SCSI機器は正しく取り付けられていますか？
→ SCSI機器の取り付け状態やケーブルの接続状態を確認してください。接続できる台数は、使用しているSCSIコントローラボードによって制限されている場合もあります。

□ SCSIコントローラの取り付け・設定を間違えていませんか？
→ オプションのSCSIコントローラボードが正しく取り付けられていることを確認してください。
→ SCSIコントローラボードが持つBIOSセットアップユーティリティで正しく設定してください。詳しくはSCSIコントローラボードに添付のマニュアルを参照してください。

□ SCSI機器の設定を間違えていませんか？
→ 外付けSCSI機器に取り付けているデバイスのSCSI IDや終端抵抗などの設定を確認してください。SCSI IDの設定についてはSCSI機器に添付のマニュアルを参照してください。終端の設定についてはSCSIコントローラボードに添付のマニュアルも併せて参照してください。



PCIデバイスを増設後、正しく動作しなくなった

□ ボードを正しく取り付けていますか？
→ 7章を参照して正しく取り付け直してください。

□ ボードに割り当てた割り込み設定を間違えていませんか？
→ 5章を参照して正しく設定してください。



ネットワーク上で認識されない

□ ケーブルを接続していますか？

→ 本装置背面にあるネットワークポートに確実に接続してください。また、使用するケーブルがネットワークインタフェースの規格に準拠したものであることを確認してください。

□ BIOSの設定を間違えていませんか？

→ 本装置のBIOSセットアップユーティリティで内蔵のLANコントローラを無効にすることができます。CMOS Setupユーティリティで設定を確認してください。
<確認するメニュー：「Integrated Peripherals」→「Onboard LAN Controller」>

□ プロトコルやサービスのセットアップを済ませていますか？

→ 本装置専用のネットワークドライバをインストールしてください。また、TCP/IPなどのプロトコルのセットアップや各種サービスが確実に設定されていることを確認してください。

□ 転送速度の設定を間違えていませんか？

→ 本装置に標準で装備されている内蔵のLANコントローラは、転送速度が1000Mbps、100Mbpsと10Mbpsのどのネットワークでも使用することができます。この転送速度の切り替えまたは設定は「PROSet Ⅱ」から行いますが、複数の速度を選択せずに、「1000」「100」「10」のいずれかに設定してください（3章の「デバイスドライバ（本体標準装備）のセットアップ」を参照してください）。

□ システムのアップデートをしましたか？

→ オペレーティングシステムをインストールした後にネットワークドライバをインストールした場合は、システムのアップデートをしなければ正しく機能しません（3章参照）。

Windows 2000について



インストールを正しくできない

□ インストール時の注意事項を確認していますか？
→ 3章を参照してください。（または、オンラインドキュメントを参照してください。）



Windowsのインストール中、テキストベースのセットアップ画面で、文字化けしたメッセージが表示され、インストールが続行できない

□ 複数のハードディスクを接続したり、ディスクアレイコントローラ配下に複数のシステムドライブを作成してインストールを行っていませんか？
→ OSをインストールするハードディスク以外のハードディスクをいったん取り外した状態でインストールしてください。

→ ディスクミラーリングコントローラ配下のディスクにインストールする場合は、システムドライブを複数作成せず、1つだけ作成してインストールしてください。複数のシステムドライブを作成する場合は、インストール完了後、ディスクアレイのコンフィグレーションユーティリティを使用して追加作成してください。



Windows 2000のインストール中、イベントビューアのシステムログに次のような内容の警告が記録される

「ページング操作中にデバイス¥Device¥CdRom0上でエラーが検出されました。」

→ システムの運用上、問題ありません。



OSを起動できない

□ フロッピーディスクをセットしていませんか？
→ フロッピーディスクを取り出して再起動してください。

□ EXPRESSBUILDERをセットしていませんか？
→ EXPRESSBUILDERを取り出して再起動してください。

□ OSが破損していませんか？
→ 修復プロセスを使って修復を試してください（162ページ）。



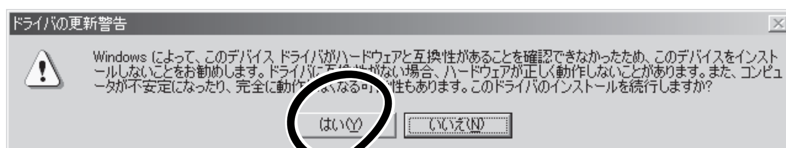
OSの動作が不安定

□ システムのアップデートを行いましたか？
→ OSをインストールした後にネットワークドライバをインストールすると動作が不安定になることがあります。3章を参照してシステムをアップデートしてください。

インストール後にデバイス マネージャで日本語106/109 キーボードが英語101/102 キーボードと認識される

→ デバイス マネージャでは英語101/102キーボードと認識されていますが、キーボードの入力は日本語106/109キーボードの配列で行うことができます。日本語106/109キーボードに変更したいときは、以下の手順で変更してください。

1. [スタートメニュー]から[設定]を選択し、[コントロールパネル]を起動する。
2. [管理ツール]内の[コンピュータの管理]を起動し[デバイスマネージャ]をクリックする。
3. [キーボード]をクリックし、以下のプロパティを開く。
   101/102英語キーボードまたは、Microsoft Natural PS/2キーボード
4. [ドライバ]タブの[ドライバの更新]をクリックし、[このデバイスの既知のドライバを表示してその一覧から選択する]を選択する。
5. 「このデバイス クラスのハードウェアをすべて表示」を選択し、日本語 PS/2キーボード(106/109キー)を選択しして[次へ]をクリックする。
6. ウィザードに従ってドライバを更新してコンピュータを再起動する。
7. 以下のメッセージが表示された場合は、[はい]をクリックして操作を続行する。



障害発生時、「自動的に再起動する」の設定で、設定どおりに動作しない

→ コントロールパネルの[システム]で障害発生時に「自動的に再起動する」の設定にかかわらず、自動的に再起動する場合や再起動しない場合があります。再起動しない場合は、手動で再起動してください。

[コントロールパネル]→[システム]→[詳細]→[起動/回復]

ブルー画面で電源OFFができない

→ ブルー画面で電源をOFFにする時は、強制電源OFF(強制シャットダウン:POWERスイッチを4秒間押し続ける)を行ってください。一度押しでは電源はOFFになりません。

スリープ機能が働かない

□ オプションボードを実装していますか?

→ オプションボードが実装されている時はオプションボードがスリープ機能に対応しているかご確認ください。

スリープ状態にしてもすぐに復帰する

□ キーボードやマウスに触れていませんか?

→ PS/2キーボード・マウスからのウェイク(復帰)が有効になっています。スリープ状態になってもマウスに触れて動かすとすぐに復帰します。デバイスマネージャでPS2キーボード/マウスの電源復帰のチェックを外してください。



スリープ状態から通常状態に戻らない

□ BIOSの設定を変更していませんか？

→ CMOS Setupユーティリティの「Power Management Setup」→「ACPI Suspend Type」を確認してください。「S3（STR）」に設定していると、スリープ状態から復帰するとき、「（電源オプションのプロパティでの）モニタの電源を切る」状態で復帰する場合があります（画面が出力されない）。その場合は、キーボードかマウスを操作してください。

→ CMOS Setupユーティリティの「Power Management Setup」→「ACPI Suspend Type」を確認してください。「S3（STR）」に設定していると、オプションボードによってはスリープ状態から復帰しない場合があります。その場合は、「S1（POS）」に設定して使用してください。



3Dアプリケーションがアプリケーションエラーを起こし、終了する

□ 3Dアプリケーション動作中に画面解像度、色数、リフレッシュレートを変更しませんでしたか？

→ 3Dアプリケーション動作中は、画面解像度、色数、リフレッシュレートを変更しないでください。

□ スクリーンセーバーを「3D迷路（OpenGL）」に設定していませんか？

→ スクリーンセーバー「3D迷路（OpenGL）」が起動すると画面解像度が変更され、3Dアプリケーションがアプリケーションエラーを起こすことがあります。3Dアプリケーションをご使用の場合、スクリーンセーバーは「3D迷路（OpenGL）」以外に設定してください。



Windows 2000でService Pack3を運用中、イベントビューアに下記内容のWinMgmtの警告が登録される場合がある

イベントID: 37

説明: ライブラリ内で不明な問題が発生したため、WMI ADAP は"ファイル名"パフォーマンスライブラリを読み込むことができませんでした。また0x0Service Pack 3 CD-ROMを使用した場合は、CD-ROMドライブから抜き取ってください。

イベントID: 41

説明: Collect 関数で時間違反があったため、ADAP は"ファイル名"パフォーマンスライブラリを処理できませんでした。または009 サブキーで値が見つからなかったため、WMI ADAPはパフォーマンスライブラリ" ファイル名" のオブジェクトインデ ックス"インデックス番号"を作成しませんでした。

イベントID: 61

説明: open関数で時間違反があったため、WMI ADAPは"ファイル名"パフォーマンスライブラリを処理できませんでした。

→ カウンタの問題またはWMI(Windows Management Instrumentation)パフォーマンスライブラリdredgerの無効な正の戻り値が原因で登録されることがありますが、運用上は特に問題はありません。



Windows 2000でService Pack 3を運用中、イベントビューアに下記内容のLoadPerfの警告が登録される場合がある

イベントID:　2000
説明:　インストールファイルでオブジェクトの一覧が見つかりませんでした。オブジェクトの一覧をインストールファイルに追加すると、パフォーマンスカウンタを計測するときに、システムのパフォー マンスが改善されます。

→ WMI(Windows Management Instrumentation)が表示されたパフォーマンスカウンタを求めることが原因で登録されることがありますが、運用上は特に問題はありません。



Windows 2000でService Pack 3を運用中、イベントビューアに下記内容のrasctrsの警告が登録される場合がある

イベントID:　2001
説明:　インストールファイルでオブジェクトの一覧が見つかりませんでした。オブジェクトの一覧をインストールファイルに追加すると、パフォーマンスカウンタを計測するときに、システムのパフォー マンスが改善されます。

→ Systemroot¥system32¥driversフォルダ配下にNDISWAN.SYSが存在するかどうか確認してください。システムの再起動後に本エラーが登録されていない場合は、運用上は特に問題はありません。



Windows 2000の運用中、イベントビューアのイベントログに次のような内容の警告が記録される

イベントID:　13
ソース:　E1000
種類:　警告
説明:　Intel(R) 82544GC based network connection
PROBLEM:Could not establish link.
ACTION:Check network cable.
ACTION:Run PROSet diagnostics.

イベントID:　13
ソース:　E1000
種類:　警告
説明:　Intel(R) 82544GC based network connection #2
PROBLEM:Could not establish link.
ACTION:Check network cable.
ACTION:Run PROSet diagnostics.

* Teaming(チーミング)時には、以下も登録される場合があります。#0はTeam番号。
ソース:iANSMiniport、イベントID:11, 13の警告も同様に登録される場合があります。

イベントID:　16
ソース:　iANSMiniport
種類:　エラー
説明:　Team #0:The last adapter has lost link.
Network connection has been lost.

→ gigaドライバをインストールした場合、システム起動時に上記のイベントログが記録されますが、LANドライバの動作上問題ありません。

gigaドライバの速度設定を1000Mbpsから100Mbpsに変更したのにESMPRO/統合ビューアのデータビューアでネットワークの詳細を参照すると、設定したスピードが不正に表示(1000Mbps)される

→ gigaドライバの速度設定を変更した場合、表示が不正になりますが、LANドライバの動作には影響ありません。

Windows2000の「コンピュータの管理」−「システムツール」−「システム情報」−「システム概要」表示にて、プロセッサのスピードが正しく表示されない

→ 表示が不正になりますが、装置の動作には問題ありません。

Windows2000の「システムプロパティ」−「全般」タブの中で、プロセッサの名称がずれて表示される

→ 装置の動作には問題ありません。

EXPRESSBUILDERについて

EXPRESSBUILDERから本装置を起動できない場合は、次の点について確認してください。

□ POSTの実行中にEXPRESSBUILDERをセットし、再起動しましたか？

→ POSTを実行中にEXPRESSBUILDERをセットし、再起動しないとエラーメッセージが表示されたり、OSが起動したりします。

□ BIOSのセットアップを間違えていませんか？

→ 本装置のBIOSセットアップユーティリティでブートデバイスの起動順序を設定することができます。BIOSセットアップユーティリティでCD-ROMドライブが最初に起動するよう順序を変更してください。
<確認するメニュー: 「Advanced BIOS Features」→「First Boot Device」「Second Boot Device」「Third Boot Device」>

EXPRESSBUILDER実行中、何らかの障害が発生すると、以下のようなメッセージが表示されます。メッセージを記録して保守サービス会社に連絡してください。

メッセージ	原因と処理方法
本プログラムの動作対象マシンではありません。	EXPRESSBUILDER の対象マシンではありません。対象マシンで実行してください。
NvRAMへのアクセスに失敗しました。	不揮発性メモリ(NvRAM)にアクセスできません。
ハードディスクへの アクセスに失敗しました。	ハードディスクが接続されていないか、ハードディスク が異常です。ハードディスクが正常に接続されていることを確認して ください。

この他にもシームレスセットアップでディスクアレイ構築時やシステム診断を実行したときに障害を検出するとエラーメッセージが表示されます。表示されたメッセージをメモし、保守サービス会社までご連絡ください。

ディスクアレイに関するセットアップ中に障害を検出するとディスクアレイのセットアップをスキップします。このようなメッセージが現れた場合は、ディスクミラーリングコントローラまたはハードディスクドライブに障害が発生しているおそれがあります。保守サービス会社に保守を依頼してください。

シームレスセットアップについて

指定したパーティションサイズよりも小さい容量のハードディスクを使用してインストールしようとしたときに以下のメッセージが表示された

```
指定されたﾊﾟｰﾃｨｼｮﾝｻｲｽﾞはﾊｰﾄﾞﾃﾞｨｽｸの確保可能な容量を超えています。
ｾｯﾄｱｯﾌﾟは確保できる最大ｻｲｽﾞでﾊﾟｰﾃｨｼｮﾝを作成しました。
ｾｯﾄｱｯﾌﾟを続行します。

    OK
```

→ 異常ではありません。<Enter>キーを押してインストールを続けてください。

CD-ROMからファイルをコピー中またはCD-ROMをチェック中に次のメッセージが表示されたり、画面表示が乱れたりする

```
xxxxx : Not Ready xxxxxxxxxxxxxxxxxxxZ
xxxxx(A),  xxxxx(R), xxxxx(F)
```

→ <R>キーを押してください。<R>キーを押しても何度も表示されるときは、シームレスセットアップをはじめからやり直してください。それでも同じ結果が出たときは保守サービス会社に連絡して、CD-ROMドライブの点検を依頼してください。

自動インストールが中断し、セットアップ情報を入力するように求められた

→ 設定したセットアップ情報に間違いがあります。メッセージに従って正しい値を入力してください。インストールをキャンセルする必要はありません。Windows 2000ではセットアップの最後のリブートで再度、<Enter>キーの入力を要求されることがあります。

「コンピュータの役割」画面で[終了]が表示される

→ ここで[終了]をクリックすると、その後の設定はシームレスセットアップの既定値を自動的に選択して、インストールを行います。

<既定値>

ネットワークプロトコルの設定

プロトコル:	TCP/IP [DHCP指定]
サービス:	Microsoft ネットワーク用ファイルとプリンタ共有の選択
クライアント:	Microsoft ネットワーク用クライアント
コンポーネント:	SNMP、IIS(Professionalを除く)

アプリケーション:	ESMPRO/ServerAgent エクスプレス通報サービス FastCheck(RAIDコントローラ接続時) Windows Mediaサービス

EXPRESSBUILDER上で使用者名と会社名を入力する時、日本語入力ができない

→ OSを起動後、使用者名と会社名を再設定する画面がポップアップされ、日本語入力が可能となります。再設定を行ってください。

EXPRESSBUILDER上でパラメータに日本語の入力ができない

→ ExpressPicnicで作成したセットアップパラメータファイルを使用するかOS起動後コントロールパネルから再設定してください。

* 使用者名と会社名についてはOS起動後に表示される画面で入力してください。

「コンピュータの役割」画面で[終了]が表示されない

→ 作成済みのセットアップ情報ファイルをロードした場合は表示されません。

→ [終了]は、最初に[コンピュータの役割]画面に移ったときにのみ表示されます。一度でも[コンピュータの役割]から先の画面に進むと[戻る]を使用して、[コンピュータの役割]画面に戻っても、[終了]は表示されません。

「ﾊﾟｰﾃｨｼｮﾝの使用方法」で「既存ﾊﾟｰﾃｨｼｮﾝを使用する」を選択したのにディスクの全領域がOS領域としてインストールされている

→ 流用するパーティション以外(保守領域を除く)にパーティションが存在しましたか?流用するパーティション以外にパーティションが存在しなかったとき全領域を確保してWindows 2000をインストールします。

パーティションサイズを8000MBと指定したのに、Windows 2000起動後に確認してみると7553MBしか確保されていない

□ IDEディスクにOSをインストールしていませんか?

→ ディスクによっては、8000MBを指定しても最大で7553MBしか作成されないことがあります。

パーティションサイズに大きな値を指定したのに、実際にシステムを起動してみると、4095MBでシステムパーティションが作成されている

→ 「ﾊﾟｰﾃｨｼｮﾝｻｲｽﾞ」で実領域以上の値を設定していませんか?全領域を1パーティションで作成したい場合は「全領域」を設定するようにしてください。

ディスプレイの解像度として指定したものと違う解像度でWindows 2000が起動された

→ ディスプレイの解像度は、指定された設定が使用できなかった場合、それに近い設定かまたはドライバのデフォルト値が使用されます。

間違ったプロダクトIDキーを入力してしまった

→ 間違ったプロダクトIDキーを入力しても、自動インストールは開始します。しかし、自動インストール中にストップ、再入力を促されます。また、この場合、自動インストール中のGUIセットアップ終了のリブート時に入力要求が発生します。これら2回の入力を行えば、Windows 2000のセットアップには問題はありません。

「プログラムの終了･･･CSC Notifications Window」ダイアログボックスに「このプログラムは応答していません」というメッセージが表示される場合がある

□ 問題ありません。

→ 自動的にシャットダウンが行われ、システムのリカバリが続行されます。



ログオン時に「デジタル署名が見つかりませんでした」ダイアログボックスに以下のメッセージが表示される場合がある

> Microsoftデジタル署名によって、ソフトウェアがWindows上でテストされ、
> その後変更されていないことが保証されます。
> ・
> ・

□ 問題ありません。

→ [はい]をクリックし、メッセージに従って続行してください。



ネットワークアダプタの詳細設定ができない

→ シームレスセットアップでは、ネットワークアダプタの詳細設定は行えません。Windows 2000の起動後、コントロールパネルから設定してください。



ドメインに参加するように設定したのに、ワークグループでインストールされている

→ インストール中、ドメインの参加に失敗した場合、ワークグループでセットアップします。コントロールパネル→システムからドメインの参加設定を行ってください。



シームレスセットアップで設定しなかったネットワークアダプタの設定が行われてWindows 2000が起動された

→ Windows 2000は認識したネットワークアダプタは既定値に設定してインストールします。設定の変更は、Windows 2000の起動後、コントロールパネルから行えます。また、シームレスセットアップで設定したが、実際に接続されていなかった場合、アダプタのセットアップは行われませんが、プロトコルのインストールだけは行われます。



複数枚ネットワークアダプタを装着し、アダプタごとに違うプロトコルを設定したのに、どのアダプタもすべてのプロトコルが設定されている

→ 仕様です。各アダプタにはインストールされたプロトコルすべてが使用できるように設定されます。シームレスセットアップで設定できないものは、すべて既定値になります。



複数のネットワークアダプタを設定したとき、TCP/IPプロトコルの詳細設定がすべてDHCPを使用するになっている

→ 複数枚のネットワークアダプタを設定したときに、プロトコルの詳細設定がすべて既定値になることがあります。コントロールパネルから詳細設定を行ってください。



ネットワークアダプタを複数枚接続していないのにプロトコルの詳細設定がすべてデフォルト設定になっている(例: TCP/IPの場合IPアドレス設定したのにDHCP設定になっているなど)

→ 複数のプロトコルを設定していませんか？

この場合、複数のネットワークアダプタを接続したときと同じ状態になるため、プロトコルの詳細設定がデフォルト設定になってしまいます。

OS起動後にコントロールパネルから詳細設定を行ってください。

2GB以上のパーティションにNTFSでインストールしたのにクラスタサイズが512バイトでインストールされる

→ シームレスセットアップの仕様です。512バイト以外のクラスタサイズでインストールしたい場合は、マニュアルセットアップをしてください。

以下のメッセージが表示され、インストールが中断する

Windows ブートローダをインストールできませんでした。 C:ドライブがフォーマットされているか、ドライブが損傷していないか確認してください。

→ 追加アプリケーションのインストールを指定している場合、この現象が発生する場合があります。この現象が発生した場合、追加アプリケーションを指定しないでインストールを行なってください。

マスターコントロールメニューについて

オンラインドキュメントが読めない

□ Adobe Acrobat Readerが正しくインストールされていますか?

→ オンラインドキュメントの一部は、PDF形式で提供されています。あらかじめAdobe Acrobat Reader(Version 4.05以上)をご使用のオペレーティングシステムへインストールしておいてください。なお、Adobe Acrobat Readerは、EXPRESSBUILDERからインストールすることができます。マスターコントロールメニューを起動後、「ソフトウェアのセットアップ」の「Adobe Acrobat Reader」を選択してください。

オンラインドキュメントの画像が見にくい

□ ご使用のディスプレイは、256色以上の表示になっていますか?

→ ディスプレイの設定が256色未満の場合は、画像が見にくくなります。256色以上の表示ができる環境で実行してください。

マスターコントロールメニューが表示されない

□ ご使用のシステムは、Windows NT 4.0以降、またはWindows 95以降ですか?

→ CD-ROMのAutorun機能は、Windows 2000、およびWindows NT 4.0、Windows 95以降でサポートされた機能です。それ以前のバージョンでは自動的に起動しません。ご注意ください。

□ <Shift>キーを押していませんか?

→ <Shift>キーを押しながらCD-ROMをセットすると、Autorun機能がキャンセルされます。

□ システムの状態は問題ありませんか?

→ システムのレジストリ設定やCD-ROMをセットするタイミングによってはメニューが起動しない場合があります。そのような場合は、CD-ROMの¥MC¥1ST.EXEをエクスプローラ等から実行してください。

メニュー項目がグレイアウトされている

□ ご使用の環境は正しいですか？

→ 実行するソフトウェアによっては、管理者権限が必要だったり、本装置上で動作することが必要だったりします。適切な環境にて実行するようにしてください。

"This program requires Windows Japanese version" というメッセージを表示する

□ ご使用の環境は正しいですか？

→ 本製品は、日本語版Windows専用です。オペレーティングシステムが英語バージョンの場合、プログラムは起動できませんので、日本語バージョンのオペレーティングシステムにて動作させてください

ExpressPicnicについて

セットアップ情報の設定でExpressPicnicウィンドウのビットマップが正しく表示されない（Trekkingコマンド使用時）

→ ディスプレイの設定の色数が256色未満の場合はビットマップが正しく表示されていませんが、セットアップ情報は正しく表示できます。

Point To Point トンネリング プロトコルの設定ができない

→ 現在サポートしていません。インストール後、コントロールパネルから設定を行ってください。この場合、リブートは必要ありません。

ネットワークアダプタの詳細設定ができない

→ ExpressPicnicでは、ネットワークアダプタの詳細設定は行えません。Windows 2000起動後、コントロールパネルから設定してください。

ESMPROについて

ESMPRO/ServerAgent（Windows版）について

→ 添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」内のオンラインドキュメント「ESMPRO/ServerAgent（Windows版）インストレーションガイド」でトラブルの回避方法やその他の補足説明が記載されています。参照してください。

ESMPRO/ServerManagerについて

→ 添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」内のオンラインドキュメント「ESMPRO/ServerManagerインストレーションガイド」でトラブルの回避方法やその他の補足説明が記載されています。参照してください。

障害情報の採取

万一障害が起きた場合、次の方法でさまざまな障害発生時の情報を採取することができます。



- 以降で説明する障害情報の採取については、保守サービス会社の保守員から情報採取の依頼があったときのみ採取してください。
- 障害発生後に再起動されたとき、仮想メモリが不足していることを示すメッセージが表示されることがありますが、そのままシステムを起動してください。途中でリセットし、もう一度起動すると、障害情報が正しく採取できません。

イベントログの採取

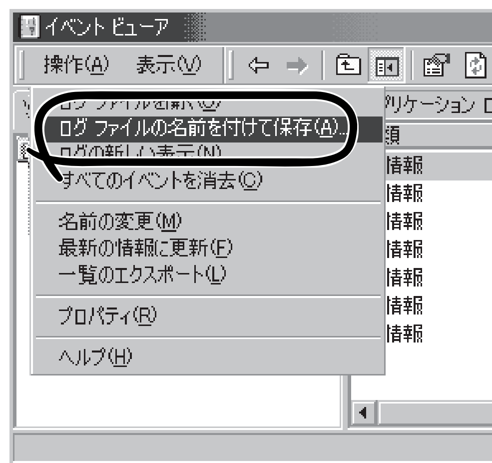
本装置に起きたさまざまな事象（イベント）のログを採取します。



STOPエラーやシステムエラー、ストールが起きている場合はいったん再起動してから作業を始めます。

1. コントロールパネルから[管理ツール]－[イベントビューア]をクリックする。
2. 採取するログの種類を選択する。

   [アプリケーション ログ]には起動していたアプリケーションに関連するイベントが　記録されています。[セキュリティ ログ]にはセキュリティに関連するイベントが記録されています。[システム ログ]にはWindows 2000のシステム構成要素で発生したイベントが記録されています。
3. [操作]メニューの[ログファイルの名前を付けて保存]コマンドをクリックする。
4. [ファイル名]ボックスに保存するアーカイブログファイルの名前を入力する。
5. [ファイルの種類]リストボックスで保存するログファイルの形式を選択し、[OK]をクリックする。



詳細についてはWindows 2000のオンラインヘルプを参照してください。

構成情報の採取

本装置のハードウェア構成や内部設定情報などを採取します。
情報の採取には「診断プログラム」を使用します。



STOPエラーやシステムエラー、ストールが起きている場合はいったん再起動してから作業を始めます。

1. スタートメニューの[設定]をポイントし、[コントロールパネル]をクリックする。

   [コントロールパネル]ダイアログボックスが表示されます。

2. [管理ツール]アイコンをダブルクリックし、[コンピュータの管理]アイコンをダブルクリックする。

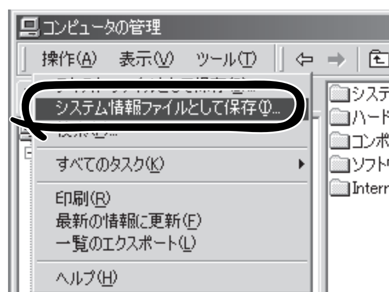
   [コンピュータの管理]ダイアログボックスが表示されます。

3. [システムツール]ー[システム情報]をクリックする。

4. [操作]メニューの[システム情報ファイルとして保存]コマンドをクリックする。

5. [ファイル名]ボックスに保存するファイルの名前を入力する。

6. [保存]をクリックする。



ワトソン博士の診断情報の採取

ワトソン博士を使って、アプリケーションエラーに関連する診断情報を採取します。
診断情報の保存先は任意で設定できます。詳しくは「ワトソン博士の設定」(3章)を参照してください。

メモリダンプの採取

障害が起きたときのメモリの内容をダンプし、採取します。ダンプをDATに保存した場合は、ラベルに「NTBackup」で保存したか「ARCServe」で保存したかを記載しておいてください。診断情報の保存先は任意で設定できます。詳しくは「メモリダンプ(デバッグ情報)の設定」(3章)を参照してください。



- **保守サービス会社の保守員と相談した上で採取してください。正常に動作しているときに操作するとシステムの運用に支障をきたすおそれがあります。**
- **障害の発生後に再起動したときに仮想メモリが不足していることを示すメッセージが表示される場合がありますが、そのまま起動してください。途中でリセットして起動し直すと、データを正しくダンプできない場合があります。**

障害が発生し、メモリダンプを採取したいときにDUMPスイッチを押してください。スイッチを押すときには金属製のピン(太めのゼムクリップを引き伸ばして代用可)をスイッチ穴に差し込んでスイッチを押します。

スイッチを押すと、メモリダンプは設定されている保存先に保存されます(CPUがストールした場合などではメモリダンプを採取できない場合があります)。



つま楊枝やプラスチックなど折れやすいものを使用しないでください。

システムの修復

OSを動作させるために必要なファイルが破損した場合は、「修復プロセス」を使ってシステムを修復してください。



- **システムの修復後、「システムのアップデート」(3章)を参照して必ずシステムをアップデートしてください。システムのアップデートに加え、各種ドライバをアップデートしてください。詳しくは3章を参照してください。**
- **ハードディスクが認識できない場合は、システムの修復はできません。**

次の手順に従ってシステム修復ディスクではなく、ディスクの中の情報を使って修復してください。



Windows 2000 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER(フロッピーディスク)が必要となる場合があります。4章の「EXPRESSBUILDER」を参照して作成してください。「マスターコントロールメニュー(72ページ)」の[ソフトウェアのセットアップ]から表示されるメニューからも作成できます。

1. システムの電源をONにする。
2. 本装置のCD-ROMドライブにWindows 2000 CD-ROMをセットする。
3. Windows 2000 CD-ROMをCD-ROMドライブにセットしたら、リセットする(<Ctrl>+<Alt>+<Delete>キーを押す)か、電源をOFF/ONして本装置を再起動する。
4. <装置にディスクミラーリングコントローラを取り付けていない場合>

   画面の指示に従って手順8まで進む。

   <装置にディスクミラーリングコントローラを取り付けている場合>

   画面上部に「Setup is inspecting your computer's hardware configuration...」が表示されている間に<F6>キーを押す。

   <F6>キーを押しても、このときには画面上には何の変化もあらわれません。

5. 以下のメッセージが表示されたら<S>キーを押す。

```
Setup could not detrmine the type of one or more mass storage
devices installed in your system, or you have chosen to
manually specify an adapter.Currently, Setup will load
support for the following mass storage devices.
```

   以下のメッセージが表示されます。

```
Please insert the disk labeled
manufacturer-supplied hardware support disk
into Drive A:
*  Press ENTER when ready.
```

6. Windows 2000 OEM-DISK for EXPRESSBUILDERをフロッピーディスクドライブにセットし、<Enter>キーを押す。

   アダプタのリストが表示されます。

7. SCSIアダプタのリストが表示されたら、「Win2000 Promise FastTrak100 (tm) LP/TX2 Controller」を選択し、<Enter>キーを押す。

8. 次のメッセージが表示されたら、<Enter>キーを押す。

Setup will load support for the following mass storage device(s):

9. テキストベースのセットアップが始まったら、画面の指示に従って操作を進める。

10. 選択を求められたら、<R>キーを押してシステム修復処理を選択する。

11. キーボードの種類を選択する。

Windows 2000 Server セットアップ

セットアップへようこそ

セットアップ プログラムのこの部分は、Microsoft(R) Windows 2000(R) の
インストールと設定を準備します。

- Windows 2000 のセットアップを開始するには、Enter キーを押してください。
- インストール済の Windows 2000 を修復するには、R キーを押してください。
- Windows 2000 をインストールしないでセットアップを終了するには、F3 キーを押してください。

Enter=続行　R=修復　F3=終了

12. 選択を求められたら、次のうちのどちらかを選択する。

   [手動修復](<M>キーを押す)　高度なユーザーかシステム管理者以外はこのオプションを選択しないでください。このオプションを使うと、システムファイル、パーティションブートセクタおよびスタートアップ環境の問題を修復することができます。

   [高速修復](<F>キーを押す)　このオプションは使い方がとても簡単で、ユーザーは何もする必要はありません。このオプションを選択すると、システム修復ディスクプログラムが、システムファイル、システムディスクのパーティションブートセクタおよびスタートアップ環境(システムに複数のオペレーティングシステムがインストールされている場合)に関連した問題の修復を開始します。

13. 画面に表示される指示に従って操作し、システム修復ディスクを挿入するよう求める画面では、<L>キーを押す。

   ディスクの検査後、システムは一度再起動されます。

   システム修復ディスクを使用しない処理を行います。

14. 手順1～12を繰り返す。

   修復処理が開始されます。

   修復処理の間に、見つからないファイルや破損したファイルが、ハードディスク上C:¥I386のファイルかシステムパーティションのsystemroot¥Repairフォルダのファイルに置き換えられます。こうして置き換えられたファイルは、セットアップ以降に行った構成の変更を一切反映していません。

~Memo~